

世界遺産登録に向けて

西三川砂金山(9) — 砂金稼ぎと新田開発 —

慶安3(1650)年、小比叡村蓮華峰寺末寺の西三川村3か寺の境内と、百姓5人の屋敷内に砂金があることがわかりました。そこで、砂金稼ぎの金児たちから掘立ての願いが出され、田植えの中止と麦の刈取りを早くするようにとの申入れがあり、寺や百姓は大いに難儀しました。

おりしも、蓮華峰寺では、住職の快慶が、羽黒山正光寺に遺恨が有り押しかけた罪で越後へ追放され、無住でした。それでも寺と百姓らは、「上杉景勝領となった70年前からは、この地は御朱印領であり、代官が代わっても砂金を掘らせることがなかった。また、6年前に佐渡奉行伊丹播磨守様の名代菅沼与右衛門殿の御吟味をうけ、砂金稼ぎは行わないことになっている」と申し立て、砂金稼ぎを中止させることに成功しました。

この一方で、延宝8(1678)年、西三川の4人の百姓らは、西三川砂金山の左沢山主和田三郎兵衛から、砂金流しに使っていた用水路を銀1貫目で買い取り、新田5000

刈りを開発しています。

このように西三川では、砂金稼ぎのため田畑が潰れ地となったり、移転せざるを得なかった社殿(諏訪神社)があつたりする中で、砂金稼ぎのために開かれた用水路を利用して、新田開発が確実に進んでいきました。

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



笹川集落と周辺に広がる水田

長谷寺の白山女神坐像と四天王立像を市の文化財に指定しました

市教育委員会は、5月1日付けで長谷寺(畑野地区・長谷)が所有する木造白山女神坐像と木造四天王立像を佐渡市有形文化財に指定しました。



木造白山女神坐像

木造白山女神坐像は、平安前期の作品で、像高54cm、カヤ材一木割削ぎ造で、彩色が施されています。両手先は欠損していますが、境内に白山権現社があつた頃の御神体と考えられ、平安時代の白山神では最古に類する遺品例として貴重なものです。

木造四天王立像は、持国天・増長天・広目天・多聞天の四天王からなり、像高約80cm、一木造、カヤ材を用いた古様な構造の4体です。平安中期の作品で、かつては長谷寺十一面観音像の眷属として観音堂に安置されていました。

本件は、古刹長谷寺の由緒沿革に関わる平安時代の遺品を文化財指定し、万全の保護を図るものです。

お問い合わせ 市役所世界遺産推進課文化財室

☎63-3195

「佐渡博物館クイズブック」に挑戦してみませんか?

佐渡博物館では、子どもたちが楽しみながら学習できるようにと、4月から「佐渡博物館クイズブック」を使って見学ができるようになりました。

このクイズブックは、佐渡市小学校教育研究会社会科部「佐渡博物館クイズブック作成委員会」が作成し、初級(10問)、中級(10問)、上級(20問)、博士(20問)の4コースがあり、8割以上の正解で合格印がもらえます。どのコースから始めても、友だちや家族と相談してもOKです。ぜひ一度、挑戦してみませんか?

